

令和7年度 全体構想図

学校の教育目標

共生 自立

【めざす生徒像】

- ・仲間と学習を進める中で、教科毎の見方・考え方を働きかせ、自分の考えをより確かなものにすることで、学習への意欲をさらに高めていくことができる生徒
- ・目標や課題の解決に向けて、個や集団で追究する中で、既習内容や、他教科の知識・技能、仲間の考え方等と関わらせながら、個の学びを深めることができる生徒
- ・自分の学習の状況を把握し、目標や進路の実現に向けて自ら課題をもち、主体的に学び続けることができる生徒

【生徒の実態】

- 落ち着いて学習に取り組む姿が多く見られる。
- 小集団活動の中で、協力して活動を進めたり、意見を伝えたりする姿が見られる。
- 与えられたことや決められたことには意欲的に取り組む姿が見られるが、自ら課題を見つけ追究することに弱さが見られる。
- 各単位時間の学習の繋がりを意識せず、目的意識をもたずに授業に臨む生徒もいる。
- 課題解決の見通しをもつことができず、学習に参加することを諦めてしまう生徒もいる。

【研究主題】

学びの深まりを求めて自ら追究し続ける生徒の育成 ～個の学びを深める授業を通して～

【研究仮説】

各教科等の特性を活かして学び合う学習集団を基盤とし、育成したい資質・能力や出口の姿を明確にした単元や題材の構想を生徒と共有し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることで、生徒一人一人が学びを深める達成感や喜びを実感し、更なる学びの深まりを求めて自ら追究し続ける生徒の育成につながる。

□研究主題：「学びの深まりを求めて自ら追究し続ける生徒」のイメージ

- ・身に付けた知識・技能を最大限に活用しながら目的や課題に対する自分の考えをもち、学び合いの中でよりよい学びを生み出すことや、各教科等の特性を活かした学び方で自分の考えを深めることを通じ、学びを深めることの達成感や喜びを得ることで、更なる学びの深まりを求めて主体的に学習に取り組んでいく姿

□副題：「個の学びを深める授業」のイメージ

- ・生徒一人一人の学習状況を教員が的確に把握し、資質・能力を育成するための指導の個別化や学習の個性化を図り、個に応じて学びを深めることができる手立てが講じられている授業

【研究内容】

【研究内容 1】

教科等で育成したい資質・能力を明確にした単元・題材構想の工夫

- ・出口の姿を意識した単元・題材構想の工夫
- ・各単位時間の役割や、単元内の小まとまり毎に育成したい資質・能力を明確にした単元・題材構造図の作成

【研究内容 2】

よりよい学びを生み出すための学び合いの工夫（協働的な学び）

- ・教科毎の特性を活かした学び合いを通して、自分の考えを深めることのできる展開や、指導・援助の工夫
- ・目標や学習内容に応じた、学習形態の意図的な配置の工夫

【研究内容 3】

生徒一人一人の学びを深めるための単位時間の工夫（個別最適な学び）

- ・生徒が「学びたい」と思える、焦点化された学習課題の設定
- ・個々の生徒の実態に応じて学び方や学習の目標を選択できる場の設定（学習の個性化）
- ・ねらいを全ての生徒が達成するための個々の学習状況に合わせた指導・援助の工夫（指導の個別化）